

普及活動情勢報告（令和4年6月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

「道の駅」のブドウ販売額の向上を目指して ～ブドウ栽培勉強会～



ブドウ栽培を説明する
普及指導員

5月24日、津野町の2ヶ所のブドウ園でブドウ栽培勉強会を開催し、生産者14人が出席しました。参加者のブドウ栽培は小規模で、主に道の駅で販売しています。

当課は、ブドウの5月以降の栽培上の留意点を説明しました。また、摘穂や整房方法について、副穂を切除したり果実を使用しながら説明しました。生産者からは「これで良い果実が穫れるようになる」などの声が聞かれました。

今後も当課は、地域の直販所の販売額が増え、生産者の所得向上につながるよう、栽培面積が小さい果樹についても栽培管理指導を行っていきます。

収量・品質の向上を目指して ～米ナス現地検討会を開催～



今後の栽培管理について
真剣に話を聞く参加者ら

6月3日、JA高知県高西地区津野山営農経済センターなす部会が梶原町のほ場で米ナス現地検討会を開催し、9戸（11人）の農家が参加しました。

当課からは梅雨時期から梅雨明け後の栽培管理や、ミツバチ利用の注意点、主枝の誘引管理方法、病虫害対策、その他苦土欠・摘果等について説明しました。

参加者は、温度管理やかん水量、整枝・摘果などの栽培管理について活発な意見交換を行っていました。

当課は今後ともJAと連携し、巡回指導・調査研究を通じて米ナスの収量・品質向上を図っていきます。

農産物直販所の安全の推進 ～農薬適正使用等を研修～



農薬の適正使用について
説明する当課職員

6月6日、須崎・津野山・中土佐地区農産物直販所安全安心ネットワーク連絡会が、JA土佐くろしお営農資材センターで研修会を開催し、直販所の運営者などの会員5人、当課とJAのサポート会員6人が参加しました。

当課は、農薬の適正使用、生産履歴の記帳、改正された種苗法、HACCPなどについて説明しました。

参加者から、種苗の許諾申請などについて質問が出ました。研修会を毎年開催することで、注意喚起を促すことが出来ています。

今後は、欠席会員への情報提供などを実施します。

須崎市で農福連携を推進するために ～第1回農福連携分科会～



熱心に意見交換する参加者ら

6月9日、農福連携に関わる8組織等11人が参加して、須崎市役所で第1回農福連携分科会を開催しました。

各組織等から、農福連携への関わりや、体験・就労の現状及び課題等を出し合いました。当課からは、県の推進施策や受入農家の状況などを説明しました。

参加者からは、「まず農業・福祉双方の意識啓発が必要」といった意見が出ました。

今後は、先進地の研修などを行い、農業分野と福祉分野の連携を深めていきます。

まずはそぐりの実態把握からカイゼンへ ～ニラの調製作業の撮影～



そぐり作業を撮影する普及指導員（右奥）

6月中旬まで、管内のニラそぐり機導入農家の出荷調製作業改善を目指して、実態を把握するために4戸のそぐり作業を撮影しました。

農家によってそぐり作業にかける人数やベルトの速度が違っていることが分かり、各々の工夫や作業ロスの改善事例などを確認できました。

農家からは「他の家のそぐり作業を見たことがないので比較してみたい」といった声も聞かれました。

今後は撮影した動画の分析を進め、農家ごとに改善を提案していきます。

キュウリ IPM 防除の普及・拡大を目指して ～ミナミキイロアザミウマの薬剤感受性検定～



検定用のミナミキイロアザミウマ幼虫を採取する普及指導員

6月15日、須崎市内の促成キュウリほ場で採取したミナミキイロアザミウマの薬剤感受性検定を、当課とJA土佐くろしお営農課が連携し、農業技術センターの協力により実施しました。

JAキュウリ部会では黄化えそ病を媒介するミナミキイロアザミウマに対する薬剤の防除効果の低下が問題となっており、天敵昆虫を中心とした「施設キュウリIPM防除マニュアル」を作成・配付し、IPM防除の普及に取り組んでいます。

今回の検定結果は、IPM防除マニュアルの改訂や効果的な薬剤の防除指導に活用し、IPM防除のさらなる普及に取り組んでいきます。

作業効率の向上を目指して ～カイゼンマイスターによる現地コンサル～



説明を行う普及指導員

6月16日、中土佐町大野見のミニトマトほ場で、カイゼンマイスターによる現地コンサルを対象農家、県、町職員9人が参加して行いました。

当課は、対象農家の概要やカイゼンの取組状況等を説明しました。その後、現場を見ながら、より効率的な出荷調整作業場のレイアウトや作業方法についてカイゼンマイスターを中心に参加者が意見を出し合いました。

対象農家からは、「新たなカイゼンの視点が得られた」「さらに効率化していきたい」といった声が聞かれました。

今後は得られた意見などをもとに、対象農家と作業場のレイアウトの変更などについて協議し、改善を支援していきます。